

結末、東京で13年間、千葉に8年間いました。が、後半の12年間はすべて、重要なお得意様の手の紹介営業で専らです。重要なお得意様は早稲と紹介営業を任せられるほど、ど薦めの人望厚い方々のだろ、剣道で学んだ礼儀正しさと、配気が仕事で生きたということについて語ってみたい。

社会貢献活動

子どもの安全、犯罪抑止に 関西で「見まもり活動」開始



開始式には64名の会員が参加した。

管理協は3月23日
30周年記念事業の一環
として子どもを犯罪から

本部から同協会あてに要請があったのを受けて実施するもので、マンシヨン管理人が「防犯」と書かれた腕章を巻き、マンシヨン内での作業や巡回を行い防犯発生の抑制を図るほか、マンシヨンの玄関、管理事務所に「いど

管理協は10月8日、社会貢献活動の一環として、東区の水辺を使った防災訓練を行った。管理協・川崎市の協力は16社が参加した。一昨年11月に川崎市葛西地区で行った、地域一帯の消火訓練に続き、合同防災訓練は2度目となる。

練に28組合参加

この建物、理だけでなく、快適なマンションライフがおくれるよう、戸建ても含めた地域と皆さんと共生し、お手伝いもしている」と語った。

防災訓練に参加した管理組合理事の女性は「私は自宅のほかはマンションで」と語りついでい

東急不 CO₂ 排出削減 「ブランドバリュー」

東急不動産は、環境配慮に
分りやすく表示する取り組み
でスタートさせた。地球温暖
化への取り組みが叫ばれる中
で、進を数値により分りやすく
し、責任を果たしていくため。

居住時の年間エネルギー
を算出するほか、省エネルギー
機器・冷暖房設備、設備機器
による年間エネルギー消費の
削減との比較による年間エネ
ジー削減量、年間エネルギー消
費のCO₂吸収量に換算して算出
した「ブランドバリュー」。

の安全見まもり活動」の開始式を関西の各警察本部と協力して行った。

も110番の家」のステッカーを掲示し、警察への通報などに協力する。開始式には管理協からは里

西支部長、小林良助事務
理事、寺井正昭理事ほか
滋賀県、兵庫県、奈良
和歌山県の各警察本
会、関係者が出席した。

防災セミナーも行った。黒住理事長は、避難訓練が、自治会(管理組)の船上や防災セミナーでのコミュニケーションを2戸所有している

効果のスタート
に対する成果
を首都圏の
防止・CO₂
競争感への
すことで企
費量(CO₂注
有効な高
比などの技
削減量、一
二消費の
削減量な
る。第一弾

高層住宅
管理業協会

組合支援・社会貢献に本腰

5. 用反をめぐし



社会貢献活動の一環として防災訓練
船に乗り込む防災訓練参加者（小名木川 番所橋船着場で）

今年創立30周年を迎える高層住宅管理業協会（理事長：黒住昌昭）大東アステージャ会長）がコミュニティ支援や社会貢献活動に本腰を入れた。コミュニティ支援活動は、マンションの管理組合の意図形成とマンションの価値向上に欠かせないとして取り組む必要でも、社会貢献活動は、管理組合の社会的認知度を高める重要な要素から取り組んでほしい。特に「国交省から発表された「分譲マンションストック500万戸時代に対応したマンション政策のあり方について」（社会資本整備審議会答申）では、管理会社は行政やマンション管理センターなどと連携してマンション管理組合をサポートするよう求められている。これらの活動はこの答申にも沿ったもので、今後の活動が期待される。直近の2つの活動を紹介する。



子どもまつりで挨拶する黒住理事長

「コミュニティ支援はラグビー」



「わたしは騒音問題やベット問題など住民同士のトラブルに対して「バレーボールをやったやいかん。ラグビーをやれ」といっています。

バレーボールを批判する意味もありません。仕事の取り組み姿勢です。つまり、バレーボールは相手の球(声)をブロックしちゃう

う、これをやっちゃいかんと
グビーのように球を全て受
け止める。そして、その球を誰か
適任者にパスすればいいんだと。
そのような活動はコストもかか
るかもしれないが、やがてそ
れが強みになり、差別化につな
がっていく。(2月の定例記者報
親会で、私見としながら発言

居住者の声を受け止め適任者にパスすることが肝心

東急不 CO₂排出削減効果の表示
「ブランド六義園」でスタート

東急不動産は、環境配慮に関する成果を数値で分かりやすく表示する取り組みを首都圏のマンションでスタートさせた。地球温暖化防止・CO₂排出削減への取り組みが叫ばれる中、環境配慮への取組・推進を数値により分かりやすく示すことで企業の社会的責任を果たしていくため。

居住時の年間エネルギー消費量(CO₂排出量)を算出するほか、省エネルギーに有効な高効率給湯器・冷暖房設備、設備機器効率化などの技術の導入による年間エネルギー消費の削減量、一般的な住宅との比較による年間エネルギー消費のCO₂排出削減量、年間エネルギー消費の削減量などを森林のCO₂吸収量に換算して算出する。第一弾は現在分譲中の「プラザ6差園」。

本体価格550万円戸建て住宅販売へ アキュラホーム
創業30周年「一戸建応援プロジェクト」

アキュラホーム(株)は4月1日から5月25日まで、創業30周年「一戸建応援プロジェクト」を実施、本体価格550万円(税込み)の企画型住宅「新すまい55」を販売する。

「戸建応援プロジェクト」が提案する550万円の住宅「新すまい55」は、建て住宅を持ちたいという消費者の夢を応援するためにアキュラホームの原点に戻り、品質にこだわりのながらさらなる合理化を進め実現したもの。

Webを最大限に活用した販売方法を採用することで人件費を大幅に削減し価格に反映させている。

「新すまい55」は、昭和51年から54年に

かけて当時の通産省と建設省が掲げた国家的プロジェクト「ハウス55」における「低廉かつ良質な戸建住宅の供給」という当時の主旨に沿う住宅の提供が今回のプロジェクトのベースとなっている。

新商品は、「建替えを考えている団塊世代の夫婦」をターゲットにオール電化、床下房を装備した平屋建て(48.74㎡)に「賢く人生設計したい若い世代の夫婦」向けに壁くみ大収納、3人家族にも対応する2階建て(60.39㎡)の2タイプ。室内空間レイアウトの自由度を格段に向上させるスクルトン&インフィル工法を採用した間取り自由の企画型住宅

